



村上ゼミが初の最優秀賞

4大学5ゼミの年間研究競技会

立教大学、法政大学、茨城大学、大正大学のメディア関連の5ゼミが年間研究の発表を競う4大学合同プレゼン競技会が9日午後、都内の立教大学池袋校で開かれ、人文学部メディア文化コースの村上信夫ゼミの発表「Welcome to Japan Final」がグランプリに輝いた。茨大が最優秀賞を獲得したのは初めて。



同じく人文学部から参加した古賀ゼミの「大学改革」は、ソーシャル賞、法政大学社会学部の藤代ゼミの「シティプロモーションを通じた野田市広報」は、プレゼンテーション賞、立教大社会学部の砂川ゼミ「私たちが考える沖縄」は、レジュメ賞、大正大学表現学部の川喜田・国枝ゼミの「宝塚歌劇団は消滅する?」はパワーポイント賞をそれぞれ獲得した。

4年前から続けている同コンペは、各大学のゼミがそれぞれの関心事をテーマに研究を進め、その成果を20分のパワーポイントなどでまとめ、発表するのが内容。

審査員は、今回は、電通の植村祐嗣デジタル・ビジネス局局長補、朝日新聞の徳山善雄記事審査室幹事、文芸春秋の田中祐士プロモーション部長ら。発表の①内容②プレゼンテーション力③パワポの完成度④説得力⑤レジュメなどを総合的に勘案し、順位を決めた。

審査委員長の徳山幹事は、村上ゼミの受賞について、「自分の足で稼いだ調査の充実度が群を抜いていた」と説明した。

指導に当たった村上教授は、「隅田川を越えて水戸にトロフィーを持って来れた」と成果を強調、コンペの実行委員長で村上ゼミ3年の友部咲季奈さんも「成果が評価されてとても嬉しい。これからもがんばりたい」と語っていた。



(終)